



広報

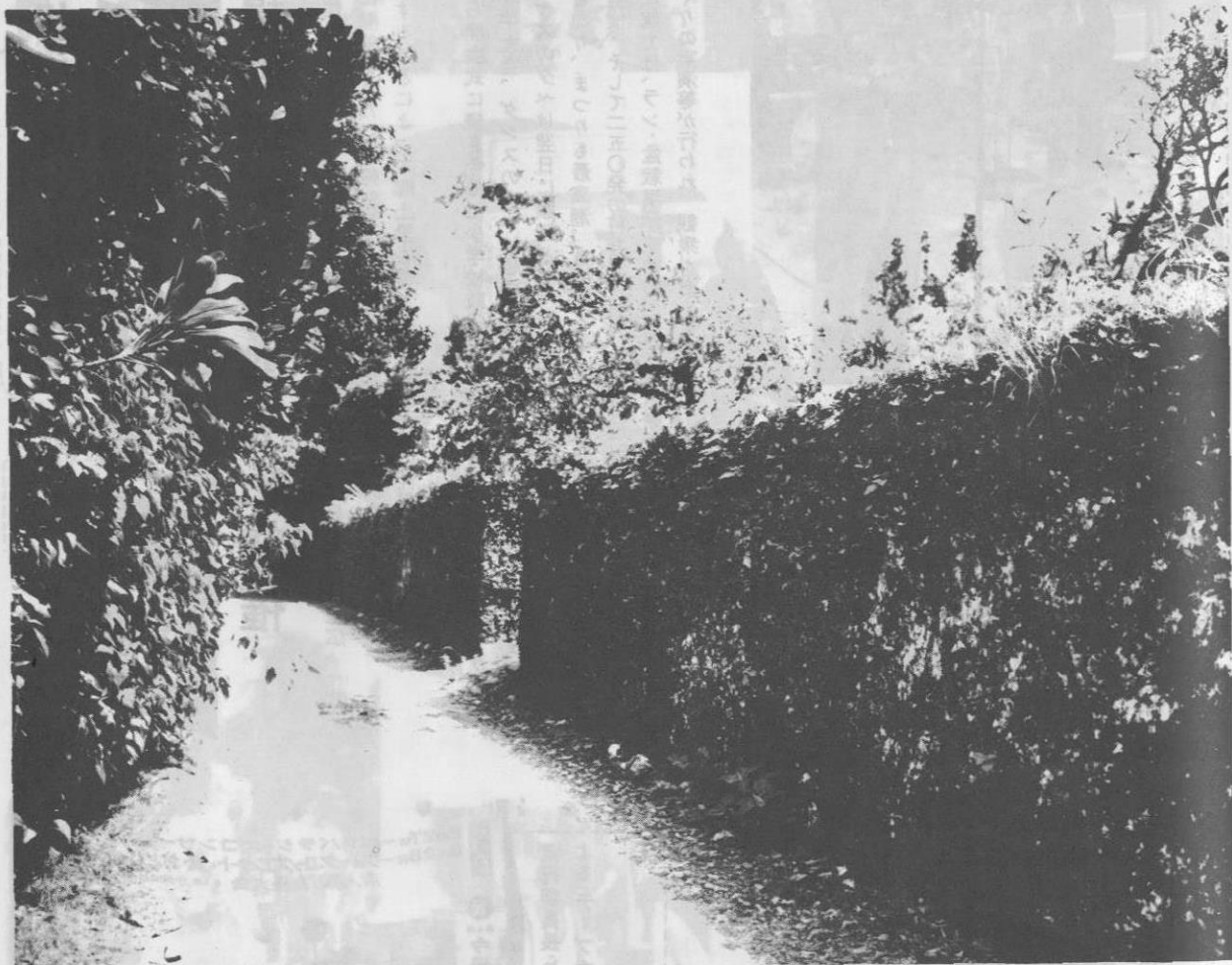
なぎじん

No. 94

1983年 9月

村 章

(毎月1日発行)



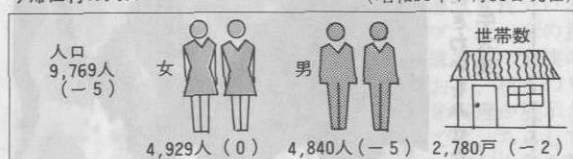
▲古里の石門

ブロック塀が多くなった昨今。葛類のからまった古い石積の門を見つけると、何となく嬉しくそして懐しさを覚える。

写真は諸喜田ツルさん（字兼次58 通称ウンサヤー）の石門。石灰岩を積み上げた長さ35.4メートル、高さ2メートル、厚さ85センチメートルの見事な門構えだ。この門は建立後すでに百数十年を経ているといわれ、文化財としても貴重なもの。在来のアカバナーとの組み合わせが、いかにもウチナー的で郷愁をさそう。緑化はまず家の囲いから始めたい。

今帰仁村の人口

(昭和58年7月31日現在)



- 二・三 はなやかににぎやかに
第四回 今帰仁村まつり
役場周辺広場を中心に盛大に開催
- 四・五 今帰仁の呼称とその語源と変遷過程をみる
- 六・七 第一回少年の主張大会
17人が熱弁を振う
- 八・九 古文書への招待
薩摩軍の今きじん通過記録⑧
- 十 第二十回国頭郡球格技大会
村チーム十種目に活躍
- 十一 図勝園より
固定資産税のあらまし

その5

今月の主な内容



会場一ぱいに集まった
婦人会・老人による盆おどり

色あざやかな
ランの展示



全島の力士が参加
沖縄角力大会



子どもからお年寄まで
が出場し、にぎわった
素人のど自慢大会



▲初めて行われた
婦人会による不用品バザー

今では貴重な民芸品
となったワラビ細工
の実演



◀ 生改グループの米料理の紹介

米の消費拡大運動は全国的に広まっており、村でも三年前から事業が導入されている。各字の生改グループでは、米の良さを活かした食改善講習会で家族の健康管理に役立てており、村まつりでも工夫をこらした米料理が展示された。試食コーナーでは、ちらしずし、玄米、ジュシー等が人気を集めていた。



子どもたちに人気
のお化け屋敷

はなやかににぎやかに

第4回 今帰仁村まつり

役場周辺広場で盛大に開催

恒例となった第四回今帰仁村まつりは、今年も八月二十七日・二十八日の両日、役場周辺広場・中央公民館で盛大に開催された。今帰仁村まつりは、村の現状を内外に紹介するとともに、村民が一堂に会することによって郷土愛を育て村の産業文化の発展に役立てようというものである。

二十七日午後二時から開会式に続き今帰仁小学校鼓笛隊を先頭に街頭パレードでまつりがスタート。その後斗牛大会、ダンスの夕べは順調に行われたものの、あいにくの悪天候のため沖縄角力、ジャズの夕べは翌日に順延となった。

二十八日は快晴となり、まつりも最高潮。角力大会、フォークロック、お化け屋敷、盆おどり、素人のど自慢、そして二五〇発の打ち上げ花火に会場は延べ一万余の人出で埋まった。

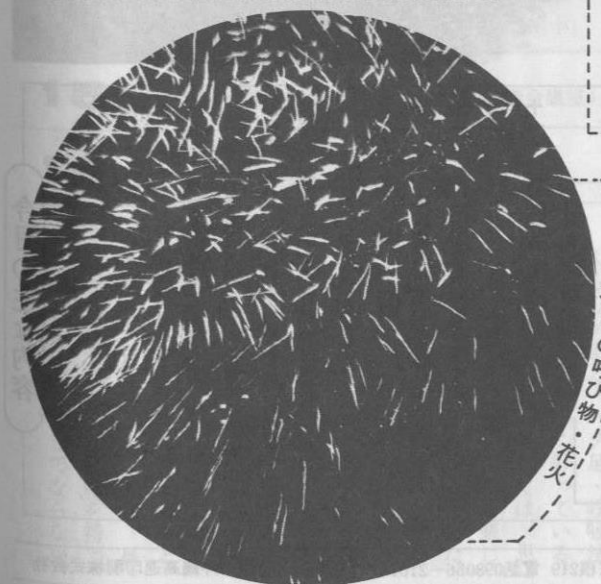
また、中央公民館では、ラン・盆栽展示を始め、婦人会バザー、生活グループの試食会、即売・民芸品づくりの実演等が行われ、観衆を楽しませた。



実行委員長の挨拶



今小の鼓笛隊を先頭にパレード



まつりの呼び物・花火



実行委員長らによる
テープカット



にぎわいをみせた
斗牛大会

「今帰仁」の呼称

その語源と変遷過程をみる

地名というのは、その地域の自然環境、あるいは歴史・文化・古語などをあらわしていることが多い。地名を掘りおこすということは、その地域の歴史や文化、そして各時代の特性を引き出すことにもなる。

本稿でみる「今帰仁」という地名・地域は、三山が鼎立していた十五世紀まで北山の中心になった地域である。今帰仁は、古琉球の時代をなめるうえで、また山原という地域の特性を浮き上がらせるうえで重要なカギを握っている地域でもある。現在、その地域を「今帰仁」と記して「ナキジン」とあるいは「ナチジン」と呼んでいる。歴史をさかのぼってみると、「今帰仁」という地名が画する範囲は、一六六六年まで今帰仁と本部を合わせた地域であった。そのことは、万暦年間に首里王府が発給した今帰仁間切に関する四枚の辞令書をみてもわかる。本部が今帰仁間切から分割設置された一六六六年以降、今帰仁という地名の指す範囲は、本部を除いた今帰仁間切(村)を区画する地名ということになる。

「今帰仁」をあらわす地名が最初に出てくるのは、琉球最古の地図として知られる申板舟の「海東諸国記」「琉球国図」(成化七年・一四七一年)である。この地図に「雲見泊」「郡島」「伊麻奇時利城」などが記されている。その中の「伊麻奇時利城」の「伊麻奇時利」が「今帰仁」にあたる地名とみられる。

「沖繩学の父」といわれている伊波普猷氏(一八七六一一九四七年)は「あまみや考」の中で「今帰仁」の語源について次のように論じている。氏は「海東諸国記」「琉球国図」(一四七一年)に記されている「伊麻奇時利城」から、その伊麻奇時利は、オモロや金石文に出てくる「みやきせん」のひとつまえの古形「いまきじり」あるいは「いまきせん」だとされる。そこで、オモロから「今」を意味する「いまや」「なま」の語を引き出し、「いまや」が「いま」より古く、「伊麻」と書いて「いまや」「いま」と読んで「いまきじり」といわれる地名になったのではないかとされる。そこで、「古代国語で、支那もしくは朝鮮からの新来者をイマキ(今来)といったのが、後にその居住地の呼称ともなっており、今木或は今城が宛てられたように、古くは例の半島でも、同じ語が新来者の義で用いられて、やがてその居住地の名称ともなり、その地方が全山原の政治的中心となるに及んで「いまやき」の下に、更に統治を意味する「しり」が附いて、「いまやきじり」となったのが、語源のわからなくなった頃「いまやきじん」に転じ、いつしか今帰仁もしくは今鬼仁が宛てられたようになつたと思われる」と述べられる。

氏は、「いまきじり」「うらおそい」「しまじり」の「じり」「おそい」の語義は、統治をあらわす語であるという。「海東諸国記」の地図で、「くにがみ」を「国頭」と字が宛てられ、「しまじり」に「島尾」が宛てられているのは、その時代においてすでに「じり」の語源が忘れ去られていた証拠だという。

もう一度整理してみると、「今帰仁」の語源は、「新来者」が本部半島に居住するようになり、その地が山原における政治的中心地となり、その地を統治する意味の「しり」が結びついて「いまきじり」といわれる地名になったということができる。その「いまきじり」(新来者統治)の語源がわからなくなったところ、「いまやきせん」に転じ、「今帰仁」や「今鬼仁」と字が宛てられていったとする見解である。

東恩納寛惇氏(一八八二—一九六三年)は、伊波氏が「今帰仁」の語源を「新来者の統治する地」とする見解に対して、「新来者」の渡来は推定にすぎない

と述べ、伊波氏の見解は穿鑿過ぎたと言わざる得ないと批判されている。そこで、東恩納氏の見解をみると、「伊麻奇時利」の文字は、『海東諸国記』に「ヶ所記された時代は今帰仁監守として尚真第三王子尚韶威が派遣されたところと、そう離れた時代ではない。当時、今帰仁が「いまきじり」と呼ばれていたならば、当然玉陵の碑(弘治十四年・一五〇一年)に「みやきせんのあんし、ままたいかね」でなく、「いまきじりあんじ……」と記されるべきであるという。

また、この時代にはR音とN音の混用がみられ「リ」が「ニ」と記されることもある。従って、「伊麻奇時利」は「いまきじり」を表記したものともみられる。そこで表記と呼称が違っていたとしても、そのころの『歴代宝案』(一五〇八年)に「セ奇銭」とあり、その音が「ミヤ・チ・チン」と発音されていたことを照らし合わせてみると、「ミヤチン」「みやきせん」と発音されていた可能性が大きい。

「この地名も字面では「いまきじり」とあっても、唱へでは「みやきせん」或は「ミヤチン」となっているのではあるまいかと考えられるが、若しさ

し、伊波氏の見解は穿鑿過ぎたと言わざる得ないと批判されている。そこで、東恩納氏の見解をみると、「伊麻奇時利」の文字は、『海東諸国記』に「ヶ所記された時代は今帰仁監守として尚真第三王子尚韶威が派遣されたところと、そう離れた時代ではない。当時、今帰仁が「いまきじり」と呼ばれていたならば、当然玉陵の碑(弘治十四年・一五〇一年)に「みやきせんのあんし、ままたいかね」でなく、「いまきじりあんじ……」と記されるべきであるという。

うたとすれば、オモロや金石文こそ文字に従って「いまきじり」と書き、道安開書の地図こそ唱へに従って「みやきせん」と書くべきである」という。

氏は、「今帰仁」の語源については言及されていない。「伊麻奇時利」と記された「海東諸国記」(一四七一年)のころには、玉陵の碑(一五〇一年)の文面「みやきせん」や「歴代宝案」(一五〇八年)の「セ奇銭」から、時間的にもそう大差がないことから「みやきせん」あるいは「みやちちん」と発音されていたとするものである。

氏は「黎明期の海外交通史」で「みや」は「いまや」の上略で、「いまや」は「いま」の拗音であろうと述べ、「いまきじん」も「いまきじり」の転化であるとみる。

「今帰仁」の語源について、これまで祖述してきたように、伊波氏が『海東諸国記』の「伊麻奇時利」を「新来者の統治、あるいは支配する」意に語源を求め、それが地名となったとするものである。これに対して東恩納氏は、新来者の史実に疑問を投げかけている。島袋氏は、別の視点から「ナキジン」の古形を再現し、それが「ナキズミ」だとし、魚が寄りつく場所だと解し、今帰仁村がその地形をなしている、そこに語源を求めている。現在のところ、今帰仁の語源は、「新来者統治」説と「魚来住」説の二つの見解があり、確固たる定説はまだないというところか。

「今帰仁」という地名を手掛かりにして、幾回となく変わっていく過程をみた。歴史の流れの中でとらえてみるのも「今帰仁」という地域を知るひとつの方法ということができよう。

「今帰仁」の語源について、これまで祖述してきたように、伊波氏が『海東諸国記』の「伊麻奇時利」を「新来者の統治、あるいは支配する」意に語源を求め、それが地名となったとするものである。これに対して東恩納氏は、新来者の史実に疑問を投げかけている。島袋氏は、別の視点から「ナキジン」の古形を再現し、それが「ナキズミ」だとし、魚が寄りつく場所だと解し、今帰仁村がその地形をなしている、そこに語源を求めている。現在のところ、今帰仁の語源は、「新来者統治」説と「魚来住」説の二つの見解があり、確固たる定説はまだないというところか。

「今帰仁」の語源について、これまで祖述してきたように、伊波氏が『海東諸国記』の「伊麻奇時利」を「新来者の統治、あるいは支配する」意に語源を求め、それが地名となったとするものである。これに対して東恩納氏は、新来者の史実に疑問を投げかけている。島袋氏は、別の視点から「ナキジン」の古形を再現し、それが「ナキズミ」だとし、魚が寄りつく場所だと解し、今帰仁村がその地形をなしている、そこに語源を求めている。現在のところ、今帰仁の語源は、「新来者統治」説と「魚来住」説の二つの見解があり、確固たる定説はまだないというところか。

「今帰仁」の語源について、これまで祖述してきたように、伊波氏が『海東諸国記』の「伊麻奇時利」を「新来者の統治、あるいは支配する」意に語源を求め、それが地名となったとするものである。これに対して東恩納氏は、新来者の史実に疑問を投げかけている。島袋氏は、別の視点から「ナキジン」の古形を再現し、それが「ナキズミ」だとし、魚が寄りつく場所だと解し、今帰仁村がその地形をなしている、そこに語源を求めている。現在のところ、今帰仁の語源は、「新来者統治」説と「魚来住」説の二つの見解があり、確固たる定説はまだないというところか。

「今帰仁」の語源について、これまで祖述してきたように、伊波氏が『海東諸国記』の「伊麻奇時利」を「新来者の統治、あるいは支配する」意に語源を求め、それが地名となったとするものである。これに対して東恩納氏は、新来者の史実に疑問を投げかけている。島袋氏は、別の視点から「ナキジン」の古形を再現し、それが「ナキズミ」だとし、魚が寄りつく場所だと解し、今帰仁村がその地形をなしている、そこに語源を求めている。現在のところ、今帰仁の語源は、「新来者統治」説と「魚来住」説の二つの見解があり、確固たる定説はまだないというところか。

「今帰仁」の語源について、これまで祖述してきたように、伊波氏が『海東諸国記』の「伊麻奇時利」を「新来者の統治、あるいは支配する」意に語源を求め、それが地名となったとするものである。これに対して東恩納氏は、新来者の史実に疑問を投げかけている。島袋氏は、別の視点から「ナキジン」の古形を再現し、それが「ナキズミ」だとし、魚が寄りつく場所だと解し、今帰仁村がその地形をなしている、そこに語源を求めている。現在のところ、今帰仁の語源は、「新来者統治」説と「魚来住」説の二つの見解があり、確固たる定説はまだないというところか。

第一回 少年の主張大会

17人が熱弁を振う

金城 哲也君(今小)に優秀賞
安田 達哉君(湧中)



子ども達が日頃考えていることを発表してもらい、あわせて健全な成長と表現能力の発達を目的とした「第一回少年の主張大会」が、八月十一日午後二時から中央公民館で行われた。大会には市内の小中学生八人、中学生九人が、自らの考えと行動を通して自然保護、非行、社会福祉など素晴らしい主張を行い、聴く人の心をひきつけていた。

その中で、小学校では今帰仁小学校六年生の金城哲也君、中学校では湧川中学校三年生の安田達哉君がそれぞれ優秀賞に輝いた。今回は優秀賞に輝いた両君の主張を紹介しよう。

思いやりの心に支えられて

今帰仁小学校六年 金城 哲也



ペルテスという病気を知っていますか。ペルテスとは、足の付けねの骨が、ある種の菌によってくさり、つぶれていく病気です。

ぼくは、四才のとき、右足がこの病気に感染してしまいました。ペルテスの治療方法は、二年

ないし三年以上、病気におかされた骨に体重をかけないで気長に待つ以外にないということです。

ぼくは、骨に体重がかからないようにするためのしかけをはめられ、さらに、自分の足で歩いてはいけないうので、家族全員の力をかりながら、松葉づえの練習を始めました。

松葉づえを使うようになって一年半がたち小学校入学がやってきました。ぼくだけが松葉づえを使うことに不満はありましたが、学級のだれもかれもが親

切にしてくれるので、喜んで、学校へ行きました。

しかし、二年、三年と学年が進むにつれてぼくは、この足の病気のことが気にかかってきました。「ぼくの足は一生、歩けないんじゃないか……」なぜ、ぼくだけがこんな病気に……みんなといっしょにかけずりまわって遊びたいなあ。体育の実技の時間もいつも見学。運動会だって、テントの中で、ぼつんと見ているだけ……。

みんなのあたたかい思いやりの心が通じていたからかもしれない。やがて、ぼくは、この足が少しずつ良くなっていることを知りました。それからは、自分からこの足を大事にするよう努力しました。そして四年生の二期、松葉づえを使わずに歩けるようになり、五年生には、楽しい体育の実技にも参加できるようになりました。

今、ぼくは、健康って本当に大事だ。ありがたしいものだ。健康である幸せを感じています。そして、こんなに健康になれたのは、ぼくの家族をはじめ、学校の先生方、たくさんのお友達のおかげに愛情に支えられてきたことを強く感じています。

三年余り、一日も欠かさず、学校への送り迎えをしてくれた母。松葉づえを投げ捨てて歩こうとしたとき、厳しく注意してくれた父。どうしているかと教室まで見に来てくれた姉。かがむことが困難なぼくに、くつをはかせてくれた先生。自由に動けないぼくにおしゃべりをつき合ってくれた友人。清掃当番も給食当番もぼくの分までしてくれた学級のみんな……。「長いという病生活の日々をふりかえると、感謝の気持ちで胸がいっぱいになり、なみだが

流れてきます。「ぼくの病気の世話をしてくれた病院の先生、これまでぼくを指導してくださった学校の先生方、ぼくと学級を共にしたみなさん、ありがとうございます。」

「お父さん、お母さん、お姉さん、おせわをありがとうございました。弟の修二に康之ありがとうございました。」

こんなに健康になったぼく。今度は、ぼくがみんなのために何かやらなければならぬと思っています。小さなぼくの力では、たいしたことはできませんが、先生や親の教えに耳をかたむけ、学級や字のみんなと協力し合って、やるべきこと、良いことを一つ一つやりとげることだと思います。

自分の足で歩けるようになった四年生のとき、ぼくは、童話大会にちようせんしました。学校のみんなのはげましにより、やる気が起こり、みごと沖繩一を勝ちとりました。

六年生になったぼくは、現在、児童会長に選ばれ、代表委員会などの活動にはげんでいます。思いやりのある心に支えられ、健康になったことを忘れずにこれからもがんばります。

私の訴えたいこと

湧川中学校三年 安田 達哉



今、ぼくのまわりには、たくさんさんの友がいます。しかし、真の友とは何だろうか、一つの事例を通して、ぼくは友情というものをも改めて考えることにしました。

ある日、Aくんがぼくに、数学の宿題を見せてくれたのだ。のだ。A君は、すぐ見せてくれると思ったのか、ノートと鉛筆を持って、ぼくの方へ首をのびてまっています。

しかし、ぼくは、両手でノートを

ぼくは、考えたのです。宿題を快よく見せる人が、いるかなあ、ということ。きつといやだけど「さらわれるのがいやだ。」とか「罰を受ける友がかわ

いそうだ。」とかで、仕方なく、見せるのだと、ぼくは思います。これは、真の友情だといえるだろうか。かえって友をだめにしているんじゃないか。なまけて宿題をしなかった者は、なまけた罰を受けるべきだと思います。ノートを貸して友をかわばうというのは、友のなまけ心をいつそう助長していく結果になると思うのです。

ぼくは、お互いに「あまえているな。」と思いました。気まえよく宿題を見せる人は、友達はどうでもいい、自分さえよければという考え方が心の底にあるように思います。親切ぶって宿題を見せて、友をだめにしていくなんで、ちょっと薄情だとはぼくは思うのです。

いつかの道徳の時間に先生がこんなことをおっしゃいました。「友人だからきびしさが必要なんだ。顔見知りだけという人に「君自分で考えなさい」「人をあてにするな」などと言いますか。そういう言葉は友情をもっている人にしか言えない言葉なんです。」といわれたのを思い出してみると、やっぱりぼくの行った行動は、まちがってはいな

湧川・五連覇

第五回少女バスケット



村教育委員会主催の「第五回少女バスケット大会」が八月十四日湧川小中学校体育館で行われ、湧川チームが大会五連覇を成し遂げた(写真上)。

今大会には、湧川をはじめ仲宗根、両連天、天底、玉城の五チームが出場。年々レベルが向上していることもあって、各試合とも熱戦が展開された。決勝には天底と湧川が出場。その結果十八対十一で湧川が勝ち、第一回大会以来五連覇を飾った。

盛り上がった

第一回県ホッケー大会

沖縄県ホッケー協会主催の「第一回沖縄県ホッケー競技大会」は、八月二十日午前九時から村営グラウンドで行われた。大会には少年の部男子に今帰仁A・B、女子に今帰仁A・B、成年の部に沖国大、那覇クラブ



先の伊吹町大会に出場した少年ホッケーチーム



きるよう努力していきたいと思ひます。そして、このすばらしい友だちが、ぼくのライバルになってぼくをかわたむけてくれる人間になりたいと思ひます。

今の時期において損、得なしに、結びついた友情こそが、これからの将来も変わらぬ友情の灯をともしつづけるものとはぼくは確信しています。

古文書への招待

薩摩軍の今きじん通過記録 ⑧

読者へ

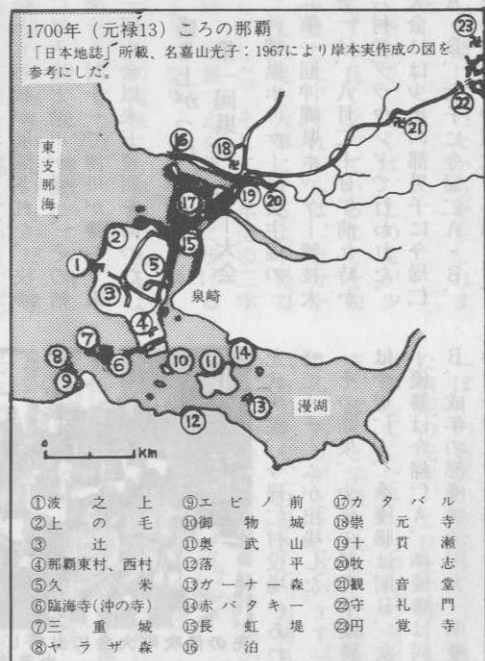
首里城は明け渡され、薩摩軍は城内の財宝その他の接収作業を開始しました。作業班は全員首里地区に泊り込み、城の出入に当たっては厳重な身体検査がなされたこと記しています。

この回では、十五名の作業班長の名前に記してふれておきます。沖縄では見馴れない人名ですが、これらの人々はほとんど何人かの家来を連れて出陣した藩内では名のある人々です。ただし伊賀守とか備後守とあるのは元来は国守としての官職名でしたが、当時はもう単なる通称となつています。わらべうたで農民の代名詞のように歌われる種蒔きの権兵衛さんにしても、古くは律令制朝廷の歴とした官職名、権の兵衛であつたのです。しかし時代が下ると、守・介・助・正・允・佐・頭さらに左衛門・右衛門も単なる通称となり、余談ながら、日本刀銘で例えば肥後守・美濃介あるいは

一方、ほとんど無疵に近い薩摩軍は凱旋の船旅です。追風にのつて一路北上、日々記の筆者は「海上見事なること申すまでもなく候」などといっています。果して途中、何事もなかったのでしょうか。（以下次号）

現代語訳および註記

城戸の番所では、すべて（誰でも）城内に行つてきた人々は、帯を解き、着物を振い、少しも御ひきようなき検査で、それぞれまことに厳格なこと、申すことなしてある。金、銀、絹、紗（うすぎぬ）その他、珍しい品物の中に立ち入つて取扱つた。（その）日数は（四月）五日から九日それに十二、十三日（七日間）の検分であつた。その期間中は荷物改めの人々は首里へ逗留し、その他の人々は皆々那覇に逗留した。荷物御改めの頭の方々は本田伊賀守殿、市来備後守殿、本田弥六殿、頼姓主水正殿、東郷休半老、大寺主計助殿、児玉四郎兵衛尉殿、妹尾傳



兵衛殿、日置玄蕃允殿、河上掃部助殿、市来八左衛門殿、伊半右衛門殿、日高與市左衛門殿、市来孫兵衛殿、那答院織部佐殿。右の方々が（毎日）辰の刻（午前八時）より酉の刻（午後六時）まで出動で御改めの作業を進め全部済んでから那覇へ下られた。この港へ逗留しているうちに、荷物船に編入される都船も来た。かの荷物は御国元（薩摩）へ送られた。何もかも終了し、追風を待っていたところに、十四日の晩に風の具合もよくなったので、その晩船に乗込んだ。同十五日巳の刻（午前十時）ごろに琉球王様も船にお乗りになつたので、御舎弟（具志頭王子）、浦添（三司官）、謝名（同）その他御供の人々も乗船した。港までの王位様の御供は千人余り来られた。そこで全船出船である。追手の風がはっきりしないので夜を通して航行し、十六日の朝古宇利へ着いた。この道三十五里。十七日辰の刻末（午前十時前ごろ）に出船した。薩摩の船に琉球の船が連なり、海上の美々しさといつたらならない。かの古宇利の港からは直航で（以下次号）あるの、

註①城戸＝城門。木戸とも書く。
②ひきよう＝比興または非興と書く。つまらない、恥ずかしい、不都合などの意。この場合、卑怯の意ではない。
③本田伊賀守親政。琉球渡海では、全般的にみて軍規厳正を欠いた中で、物頭（部将）の一人である本田親政は、よく軍規を守つたので、引揚げに際し、浦地休右衛門と共に、特に最初の在

城戸の番所では、すべて（誰でも）城内に行つてきた人々は、帯を解き、着物を振い、少しも御ひきようなき検査で、それぞれまことに厳格なこと、申すことなしてある。金、銀、絹、紗（うすぎぬ）その他、珍しい品物の中に立ち入つて取扱つた。（その）日数は（四月）五日から九日それに十二、十三日（七日間）の検分であつた。その期間中は荷物改めの人々は首里へ逗留し、その他の人々は皆々那覇に逗留した。荷物御改めの頭の方々は本田伊賀守殿、市来備後守殿、本田弥六殿、頼姓主水正殿、東郷休半老、大寺主計助殿、児玉四郎兵衛尉殿、妹尾傳

番奉行として駐留を命じられたとある。「南聘紀考（人）」
④東郷安房入道休半。老々老人に対する敬称で、二人称では、ご老体などといった。
⑤みやこ船。四月五日付、伊勢兵部少輔に宛てた桃山の手紙に都の鳴から適当な船を荷物運送に徴用するとの言及があり、宮古に都の字を当てている。
⑥「喜安日記」に、御供の人々は、具志頭王子、……都合百余人、浦添親方、若那親方二人は一つ舟に乗て御供の外にて候けり。とある。
⑦「喜安日記」。今帰仁の城は回祿す。あやしの民屋を皇居とするに及ばねば、御舟を御所とぞ定めける。『今帰仁の城は焼失していた。みすほらしい民家を王の宿所にするにはできないから、舟を宿所にした。』

読み下し

城戸の番所にて、惣別城内に参り候人々、おびをとき、きものを振ひ、少しも御ひきかうなき御改、互にきびしき事、申す事無く候。金、銀、絹、しゃ其の外、珍しき物の中にみだれ入、取り嘆ひ見申し候。日数五日、六日、七日、八日、九日、以上に十二、三日程の御改にて候。其の内は、荷物改の御人衆は首

里へ逗留候。其の外の御人衆は皆々、なほに御逗留候。荷物御改組頭の御人衆、本田伊賀守殿、市来備後守殿、本田弥六殿、頼姓主水正殿、東郷休半老、大寺主計助殿、児玉四郎兵衛尉殿、妹尾傳兵衛殿、日置玄蕃允殿、河上掃部助殿、市来八左衛門殿、伊半右衛門殿、日高與市左衛門殿、市来孫兵衛殿、那答院織部佐殿、右の御人衆、辰の刻より西の刻迄御詰めに御改め成され、相済み候てより那覇へ御下り候。彼の津へ御逗留の内に、荷物船に入り候都船も参り候。彼の荷物、御国元へ参り候。何れ共御仕舞成され、順風御待ち候處に、十四日の晩に順風もよく候間、彼の晩に乗り浮び候。同十五日巳の刻計に、琉球王位様、船に御乗り候に付き、御舎弟、うらそひ、謝内、其の外御供衆、乗舟候。湊口迄の王位御供、千人余り参られ候。即ち諸船出船にて候。追ひ手の風、然と無く候の間、夜を籠め、十六日の朝、こほりへ着き候。此の道三十五里。十七日辰の刻末に出船候。薩摩船に琉球船相添ひ、海上見事成る、申す迄無く候。彼の津より直乗りにて（以下次号冒頭へ）候故、

村文化財保存調査委員
村上 仁 賢

税務課だよ

固定資産税のあらまし

その5

Q 私は、昭和55年9月に住宅を新築しましたが、昭和59年度分から税額が急になると聞いています。なぜでしょうか。

A 新築の住宅に対しては3年間の固定資産税の減額制度が設けられており、昭和59年1月1日までに新築された住宅が、一定の要件にあたる場合は、新たに固定資産税が課税されることとなった年度から3年度分にかぎり、税額が2分の1に減額されます。したがって、あなたの場合は、昭和56・57・58年度分については税額が2分の1に減額されていたわけです。



なお、昭和59年1月1日までに新築された3階建以上の中高層耐火住宅についても一定の要件にあたる場合は、新たに固定資産税が課税されることとなった年度から5年度分にかぎり、税額が2分の1に減額されます。

固定資産税の賦課期日は、当該年度の初日と税法で定められていますので、1月1日後新築されたものは、翌年度から課税されます。

ご寄附

村社会福祉協議会へ、次の方々より寄附がありました。ご芳志ありがとうございます。

◎八月十七日、宇仲宗根二三一の宮里和子さんより夫政徹さんの香典返しとして二十万円

◎八月二十日、宇今泊一三の喜屋武文さんより夫利得さんの香典返しとして五万円。

入札結果のお知らせ

八月一日から八月二日までに
行なわれた入札の結果を
次のとおりお知らせします。

(工事名・金額・落札者名)

- ▼ 団体営草地開発整備工事
一、八〇〇万円
嘉陽組
- ▼ 代表者 嘉陽重安
- ▼ 仲尾次尾山林道開設工事
三、二〇〇万円
御今帰仁建設
- ▼ 代表者 宮城康吉

〈税金1,000円当りの使いみち〉

○私たちの健康や生活を守るために……	219円
○住宅や道路などの整備のために……	132円
○教育や科学技術の振興のために……	95円
○地方財政の援助のために……	152円
○国土の防衛のために……	55円
○国債の償還や利子支払のために……	163円
○米価の安定のために……	18円
○その他いろいろな施策のために……	166円

郵便局

からのお知らせ

郵便局では、昭和五十八年八月から毎月一回第二土曜日に為替貯金、簡易保険及び郵便年金の窓口の取扱いを休ませていただくことになりました。ただし郵便・電報・電話はこれまでどおり取り扱います。ご利用いただく皆様には何かと不便をおかけしますが、ご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

お年寄へのお祝いに郵便小包のご利用を

九月十五日は「敬老の日」で



す。この日はお年寄を敬愛し、その長寿をお祝いするという主旨で設けられているのです。

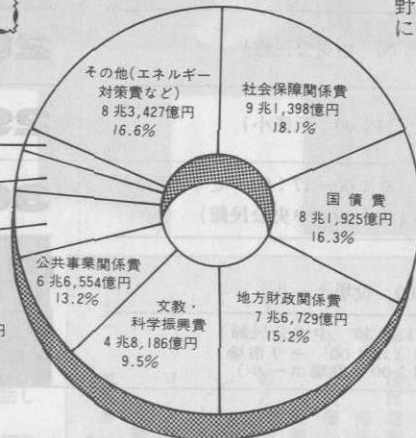
この日を契機に、遠く離れて暮らしているおじいさんおばあさんへ、また知り合いのお年寄へ、励ましのお便りを添えてお祝いの品を郵便小包でお送りしてはいかがでしょうか。

心のこもった郵便小包は、敬老の日の何よりの贈物となることでしよう。

税金はみんなのために使われる

国や地方公共団体は、私たちの国民の幸福と繁栄のためにいろいろな活動を行っています。例えば、社会福祉の充実、住宅や道路の整備、教育や科学の振興など、その活動は幅広い分野にわたっています。

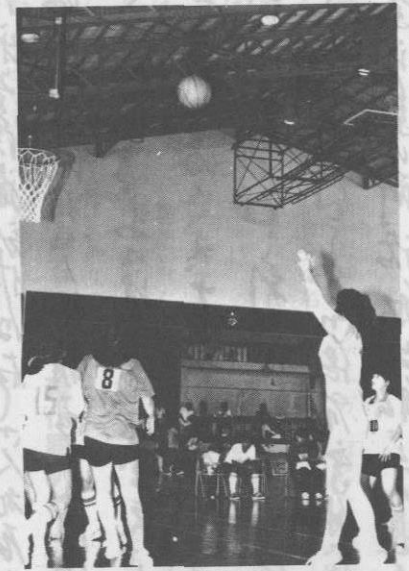
税金は、このように国が活動するための大切な財源ですから、私たちが生活の向上と安定を願う限り、どうしても負担しなければならぬ社会共通の経費であるといえます。そのため私たちは、単に義務として税金を納



昭和五十八年度
一般会計予算

第20回国頭郡球技大会

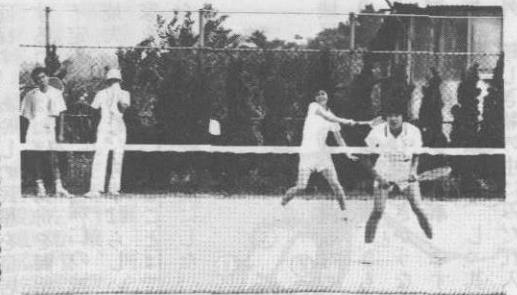
村々々々10種目に活躍



国頭郡体協主催による「第二十回郡球技大会」が、八月二十一日日本部町・伊江村・本村で開催。本村では北山高校においてバスケット・庭球・ソフトボールが行われた。

▲11年ぶり出場の女子バスケット(写真上)
▼準優勝の庭球団体戦(写真下)

村チームは、バレーボールの外男女十種目に出場。各種目とも優勝は逃したものの、卓球・剣道・庭球・江戸相撲・野球がそれぞれ準優勝。沖繩角力が三位に入賞する健闘をみせた。



なお、女子バスケットは十一年ぶりの出場で見事なプレーが、一回戦で恩納チームに惜敗した。

村政功労者 与那嶺福次郎氏逝去



村政功労者の与那嶺福次郎氏(字与那嶺一一)は病氣療養中でしたが、手あてのいかなく八月二十三日午前八時お亡くなりになりました。明治四十年十月十六日生まれで、享年七十五歳でした。

与那嶺氏は、村議員八年・村教育委員四年・村農協長九年九月を歴任され、その功績により五十六年三月十九日村政功労者として表彰されています。

さらに、村老連会長、北部老連会長、県老連副会長として、また村の民生委員として活躍されました。

氏の生前のご功績を讃えるとともに、謹んでご冥福をお祈りいたします。

ルールとマナーの向上をめざし 9月21日から 秋の交通安全週間

「みんなですめる交通安全」をテーマに、秋の全国交通安全県民運動が九月二十一日から三十日までの十日間にわたり実施されます。運動は、すべての人に交通安全思想・交通安全徳を普及徹底し、正しいルールとマナーの実践を習慣づけることにより交通事故防止の徹底を図るのが目的。

今回は、特に子供と老人の交通事故防止、二輪車の安全利用、安全速度の順守とシートベルトの着用、を重点目標として展開されます。

地域から事故を起こさない起こさせないために、みんながルールを守りお年寄や子供をいたわるマナーを身につけるようにしましょう。



★昭和58年度 敬老会★

日時 昭和58年9月15日
午後2時～
場所 村役場ホール

※おさそいあわせの上
ご来場ください。



★今帰仁村畜産共進会★

日時 昭和58年9月14日
午前9時～午後5時
場所 家畜セリ市場
主催 村役場、村農協





9月1日
10月1日

村民カレンダー



9/1 木		17 土	○ホッケー教室 (14:30 村営グラウンド) ○健康相談 (8:30~12:00 保健婦室)
2 金	○乳幼児学級 (10:00 中央公民館)	18 日	○ホッケー教室 (9:00 村営グラウンド)
3 土	○ホッケー教室 (14:30 村営グラウンド) ○健康相談 (8:30~12:00 保健婦室)	19 月	
4 日	○ホッケー教室 (9:00 村営グラウンド)	20 火	○区長会 (14:00 役場会議室) ○環境衛生週間 (9月30日まで)
5 月	○区長会 (14:00 役場会議室)	21 水	○心配ごと相談 (13:00 中央公民館) ○秋の全国交通安全県民運動 (9月30日まで) ○住民検診 (9:30~役場、13:30~仲宗根)
6 火		22 木	○住民検診 (9:30~兼次、13:30~諸志) ○環境改善サブセンター落成式 (15:00 古宇利)
7 水	○心配ごと相談 (13:00 中央公民館)	23 金	
8 木	○家庭教育学級 (14:00 今帰仁小)	24 土	○ホッケー教室 (14:30 村営グラウンド)
9 金	○乳児健診 (13:00 役場ホール)	25 日	○ホッケー教室 (9:00 村営グラウンド)
10 土	○子豚セリ市 (12:00 セリ市場) ○ホッケー教室 (14:30 村営グラウンド)	26 月	○子豚セリ市 (12:00 セリ市場) ○住民検診 (9:30~与那嶺、13:30~仲尾次)
11 日	○ホッケー教室 (9:00 村営グラウンド)	27 火	○住民検診 (9:30~崎山、13:30~平敷)
12 月	○人権相談 (10:00 中央公民館)	28 水	○移動心配ごと相談 (13:00 仲宗根公民館) ○住民検診 (9:30~謝名、13:30~越地)
13 火	○家庭教育学級 (14:00 天底小)	29 木	○住民検診 (9:30~今泊)
14 水	○村畜産共進会 (9:00~17:00 セリ市場) ○心配ごと相談 (13:00 中央公民館)	30 金	○住民検診 (9:30~玉城、13:30~呉我山)
15 木	○敬老の日 ○敬老会 (14:00 役場ホール)	10/1 土	○ホッケー教室 (14:30 村営グラウンド)
16 金	○乳幼児学級 (13:30 中央公民館) ○肉用牛セリ市 (13:00 セリ市場) ○乳児健診 (13:00 役場ホール)	2 日	○ホッケー教室 (9:00 村営グラウンド)

■九月といえども沖縄ではまだ残暑厳しい時季。テレビで交わす時節のあいさつに少なからずズレを感じてしまう。けれども早朝開いた雨戸の外はヒンヤリと冷気が。秋はもうすぐそこに。■大雨で危ぶまれた村まつりも、天候の回復で成功裡に開催。年々盛況になり伝統のまつりにふさわしい充実をみせた。これもスポンサーや役員、参加者全員の理解と協力の賜物といえよう。■まつりが雨になった例はこれまでもある。しかしこの時期の雨は農家にとって待望とあって、喜んだ人も少なくない。中止が続行かで協議した実行委員会でも「恵みの雨が降って」と奇妙なあいさつ。ともあれ、うるおいの雨も降りまつりも賑わった。まずはメダタシの一幕。■都合により「若き後継者たち」と「村民コーナー」私の一言は休ませていただきます。これらのシリーズとあわせ、広報誌に皆さんのご意見をお待ちします。

